

平成22年度

山添村教育委員会事務事業評価報告書

山添村教育委員会

# I 総務・学校教育 [魅力ある学校教育の推進]

## 教育委員会の会議開催等

- 委員会委員 5名 (教育長含む)
- 委員会の開催
  - (定例委員会(毎月開催) 審議の議案 計18件)
    - ・本年度小中学校要保護及び準要保護児童生徒の認定について
    - ・山添村立学校給食センター運営協議会委員の委嘱について
    - ・山添村立学校の管理運営に関する規則の一部改正について
    - ・山添村立学校評議員(小学校5名、中学校5名)の委嘱について
    - ・山添村教科用図書選定委員会委員の委嘱について
    - ・山添村教科用図書選定委員会への諮問について
    - ・山添村教科用図書(村立小学校平成23年度用)選定について
    - ・山添村教育委員会事務事業評価委員会設置要綱の制定について
    - ・任期満了に伴う委員長選挙について
    - ・「平成23年度山添村学校教育の指導方針」について
    - ・教職員の人事異動(平成23年4月1日付)について
    - ・平成23年度会計学校関係予算の令達について
  - 他
  - (臨時委員会審議の議案 計2件)
    - ・教育長の選出について 他
- 学校訪問の実施 (県教育委員会管理主事、指導主事と共に)
- 学校学習会、運動会、体育大会、その他研修会等への参加

## 【評価・提案等】

- ・教育行政の体制充実と地域住民の意向反映を趣旨に、これまでから幅広い委員選任が図られてきている。趣旨をもとに、今後も教育の向上と地域の実情に応じた教育の振興が図られるような機能が望まれる。
- ・委員の資質向上のため各機関が主催する研修会等に引き続き積極的に参加する体制を執ることが必要である。
- ・例年実施している学校訪問以外に積極的に学校を訪れ、教育現場の状況把握に努められている。

## 学校運営等

- 就学時健康診断 33名 男子16名、女子17名(平成23年度入学予定者)
  - ・内科・歯科・視力・聴力検査及び栄養指導
- 学校保健 (児童生徒・教職員の健康管理、病気の予防と保健指導の充実)
  - ・教職員健康検査、尿検査、ぎょう虫検査、心電図検査、結核検査、貧血検査等
- 転出入事務
  - ・転出(小1件・中2件)、区域外就学(小2件)
- 教育扶助
  - ・小学校 要保護(1名)、準要保護(3名) (207,460円)  
学用品費、給食費、医療費等への援助
  - ・中学校 準要保護(1名) (73,370円)  
学用品費、給食費への援助
- 教育課程、特別支援学級教育課程の実践への支援

- 体験学習
  - ・へき地学校児童生徒文化鑑賞奨励事業（ソプラノとテノールのコンサート）225名
- 第54回奈良県へき地教育研究振興大会（参加者総数407名）
  - ・臨時雇員賃金、大会執行費、大会負担金 計602,500円
- 学校支援地域本部事業（文科省委託事業 事業費1,514千円）
  - ・実行委員会の開催（3回）、コーディネーターの育成（2人）
  - ・ボランティアの人数 環境整備、登下校の安全指導等（延べ471名）

【評価・提案等】

- 学校運営では
  - ・へき地文化鑑賞事業により本物（プロ）の芸術に触れる機会が児童生徒の成長に良い影響を与えている。
  - ・支援を必要とする児童生徒に対し学校、保護者、行政との総合的な情報の共有及び福祉部局と連携の強化をより図る必要がある。
  - ・要保護、準要保護児童生徒への助成費などについては、県並に支給され充実している。
  - ・第54回県へき地教育研究振興大会が7年ぶりに大和高原（月ヶ瀬・山添村）を会場として多数の参加者を得て開催された。山添小中学校の学習発表では、その成果が称賛され、今後も継続しての研究活動が望まれる。
- 学校支援地域本部事業では
  - ・3ヵ年事業の3年目にあたり、各種ボランティア活動が貴重な支援となっている。しかし、事業最終年であり後継事業も予定されているが、いずれは補助事業もなくなることを視野に入れ、持続可能な体制を構築する必要がある。新事業が何年計画となるかは定かでないため、平成23年度には一定の体制づくりができるよう検討する必要がある。
  - ・今後は、各種ボランティアの人的な充実を行い、事業が完了するまでに人材バンク形式に発展させることが目標となる。

学校施設等の充実

- やまぞえ小学校
  - 【修繕】執行額 1,057千円
    - ・特別教室棟階段手摺設置、体育館玄関ドア修繕、トイレ手摺取付等
  - 【備品、教材購入】執行額 2,013千円
    - ・児童用机、椅子購入、児童玄関スノコ、図書室用椅子、教材等
  - 【図書購入】執行額 児童用図書 405冊 350千円
  - 【校舎等整備工事関係】執行額 1,728千円
    - ・カーテン等取替、旧鳥小屋改修、プールろ過装置修繕工事等
  - 【芝生整備関係】執行額 256千円
    - ・芝生用給水管増設改修工事、備品購入（芝刈機保守器具）
- 山添中学校
  - 【修繕】執行額 1,528千円
    - ・普通教室黑板改修、作法室畳表替え、楽器修理等
  - 【備品、教材購入】執行額 1,501千円
    - ・吹奏楽用楽器、保健室備品、調理室給湯器、会議室机等
  - 【図書購入】執行額 生徒用図書 162冊 300千円
  - 【校舎等整備工事関係】執行額 6,208千円
    - ・屋内運動場内壁改修、暗幕取替、教室カーテン等取替、鉄棒取替工事等

## ○山添分校

【修繕】執行額	67千円
・階段手摺取付、ミシン修理、印刷機修理	
【備品、教材購入】執行額	719千円
・図書室エアコン、コンピューターミシン、用土混合機等	
【図書購入】執行額	69千円
【管理教室棟耐震診断業務委託】執行額	1,470千円

### 【評価・提案等】

- ・小学校においては昨年度耐震補強工事に伴い大規模な整備を行い、今年度は、細かい工事と修繕を実施した。  
中学校ではかねてより懸案であった屋内運動場の壁面補修工事を実施、その他校舎設備の老朽化による修繕を一部実施したが、創立以来一度も手を付けていない箇所もあり、引き続き整備が必要である。  
特に山添分校については、2階建て校舎の耐震診断を実施、耐震補強が必要であるとの結果となった。さらに、校舎の老朽化とトイレの水洗化等、耐震補強工事と共に重点的な改修が望まれる。また、突発的修繕に対応出来る予算措置が必要である。
- ・備品購入にあっては、引き続き年次計画をもって整備していくことが望まれる。
- ・図書の購入については、補充、整備（充足率の向上を目指す）することが引き続き望まれる。
- ・小学校の運動場芝生化が進められ2年近くになり、一面に緑の絨毯となっている。ボランティアの方々の献身的な働きと共に、子ども達への好ましい影響を検証されたい。

## 小・中学校の通学対策

### ○通学バス等の運行（安全・安心な通学のため）

- ・(有)山添交通に通学バス運行委託〔6路線〕(35,303千円)及び村公用車による運行

### ○通学路の安全確保 地域の方々の協力による見守り

### ○教育委員会と学校及び家庭との通学対応の連携

- ・学校支援地域本部事業の中で、PTAと連携して青色防犯パトロールの実施
- ・雪等でのバスの遅れに対応するため、バス停周辺住民による緊急連絡員としての協力

### 【評価・提案等】

- ・安心・安全な通学の充実と将来を見据えた運行体制を構築するため、平成21年度第2学期から、中型スクールバス1台を新規購入し運行している。また、平成22年度から通学バスの運行を(有)山添交通に委託したことにより1,000万円余りの運行委託料の削減が図れた。  
今後、スクールバスの老朽化による更新も必要なことから、更に合理的な運行体系について検討していく必要がある。  
一方、補助金については、北野小学校の統合に伴う国庫補助金(1/2)が平成25年度(統合から5ヵ年間補助対象)で終了するほか、県費補助の遠距離通学費が平成22年度には補助率1/2から1/4となったこと等、村費の支出額が今後も増加することが見込まれることから経費縮減に向けた継続的な取り組みが必要である。

## 学校給食

- 学校給食センター運営協議会 委員 13 名 （運営方針の決定）
- 人員 所長、調理員 4 名、栄養職員
- 安全、安心な食材の確保
  - ・食材検査の実施 （年 1 回）
    - 食中毒菌 5 種類（カンピロバクター、O157、腸炎ビブリオ、サルモネラ等）
    - 添加物 1 種類（食材のうち、練り加工品のハム・ベーコン等）
    - 残留農薬 1 種類（食材のうち、じゃがいも・ほうれん草等）
  - ・拭き取り検査 （食材検査と共に）
    - 大腸菌群の検査 10 種類
- 施設衛生、安全管理
  - ・業者点検 施設内消毒 年 2 回、厨房機器の点検
  - ・自主点検 害虫駆除（ハエ・ゴキブリ等）、厨房機器等の安全確認
- 給食調理員の研修
  - ・県主催の研修会、講習会等参加及び村主催の研修会、現地視察等実施
- 地産、地消の推進
  - ・村内農家の手による農産物及び加工品等の使用（花香房納品・しめじ・そうめん等）
- 学校給食を通じた食の教育
  - ・小・中学校の全学年別に食の指導を実施
- 給食実施状況
  - ・給食人員 小学校 173 人、中学校 90 人、給食センター 9 人、保育園 82 人
  - ・給食実施日数 小学校 188 日、中学校 179 日、保育園 223 日
  - ・給食実施食数 計 69,771 食
  - ・給食費負担金 総額 14,271,785 円（学校等 12,758,240 円、保育園 1,513,545 円）

### 【評価・提案等】

- ・昭和 54 年 5 月から学校給食センターで共同調理を開始し、現在は小中学校と保育園 3 園へ配送を行なっている。
  - 開設から三十数年が経過し施設建物の老朽化が進んでいるが、施設の部分改修工事等を実施し機能を維持している。また、設備や備品等についても老朽化や機能低下がみられるものについては、修繕に努めると共に設備の更新を実施しており、今後も計画的に進めていく必要がある。
  - なお、施設の衛生保全のため調理室等の床を乾燥させるドライ運用を行っているが衛生管理上、近年の設置基準（新設の場合の基準）には届かない状態であり、基準を満たす新しい施設の検討が必要となつている。
  - しかし、現施設において衛生管理に基づいた日々の調理など、徹底した食の安全確保にむけて努力されている。

## Ⅱ 社会教育関係 [充実感のもてる生涯学習の推進]

### 生涯学習の機会提供

- 学習の場の充実
  - ・高齢者学習講座の開設（的野・峰寺 37名 10回開講 村内めぐり、音楽講座等）
- 推進体制の強化
  - ・教育委員会事業及び公民館事業を基軸として事業を展開（社会教育委員会議と公民館職員との連携強化）
- 学習機会・内容の充実（公民館事業の展開）
  - ・事業への参加者を増やすと共に、新しい活動を企画し、生涯学習の拠点化を図る
- 家庭教育の推進
  - ・各学校において、児童、生徒及び保護者が集う機会を活用して、講演会を行ない家庭教育の充実を図る。  
児童、生徒、保護者の参加 やまぞえ小学校 126名、山添中学校 160名、山添分校 70名

#### 【評価・提案等】

- ・平成 22 年度の高齢者学習講座は、的野・峰寺を対象に開催した。この講座はいずれの地域でも好評であり、小額の予算でありながら受講者の満足度は高く、費用対効果という面で効率のよい事業である。
- ・社会教育の推進体制の強化面では、平成 22 年度から関係者が一堂に会し今後の社会教育のあり方について検討する機会を設け、基本的な考え方について共通の認識をもつよう努めている。

### 青少年の健全育成

- みんなで育てよう子どもたち（村内 3 校に教育講演会開催のため講師料を補助）  
前項の家庭教育推進と合わせて講演会講師料等の補助
- 成人式の開催（成人式執行費 281 千円）  
参加者：新成人出席者 32 名（対象者 47 名）、来賓・主催者 20 名 計 52 名  
内 容：式典（祝辞、誓いのことば等）、アトラクション、記念撮影、記念植樹、懇親会
- 青少年講座への補助（講師報償費 48 千円）
  - ・子どもコーラス 参加者 小学生 10 名（週 2 回）
- 青少年育成事務
  - ・奈良県青少年指導員事務  
奈良県青少年指導委員連絡協議会主催の事業（総会、研修会等）への参加、同協議会第 1 ブロック（奈良市・天理市・山添村）で研修会等の開催
  - ・山辺広域子ども交流会  
広域圏（天理市・田原本町・三宅町・川西町・山添村）の小学 5 年生の交流を目的に研修会を開催 当年度「神戸空港」「神戸市立須磨海浜水族園」等見学
- 青年団の指導育成
  - ・山添村青年団 総会 年 1 回、事業 ふるさとセンター長寿岩のしめ縄作り

#### 【評価・提案等】

- ・小中学校の参観日等を利用して、家庭教育や人権学習などを実施するための講師料の一部を補助している。子どもと保護者が一緒になって研修できる絶好の機会であり、少ない費用で効果的な事業である。

- ・成人式は例年の行事に加え、対象者 47 名の成長を願い、平成 22 年度から記念植樹を行うこととした。
- ・子どもコースは定着した活動となっているが、少子化に伴う加入者の減少が予想される。今後、継続的な活動を行うためにも、新加入者の勧誘が重要となってくる。
- ・青少年育成事務においては、県青少年指導員による村内での活動が十分なものには至っていない。今後どのような活動が可能か指導員と共に研究する必要がある。
- ・青年団の指導育成では、団員数が激減し、活動も困難な状況である。青年団と連携しながら組織の在り方について抜本的な見直しについて検討したい。

## 社会教育の振興

### ○社会教育委員会 委員 8 名 定例会等年 5 回開催

- ・平成 22 年度山添村生涯学習計画の策定、社会教育推進体制の充実についての検討、各種研修会への参加、地区別懇談会に推進役として参加
- ・本年度はとりわけ「せいかつ習慣標語」に関わる協議に専念。村内外に標語を浸透させ、如何に住民の意識向上を図るか検討
  - ・ありがとう 笑顔で伝える 感謝の気持ち
  - ・明るいあいさつ みんなの笑顔
  - ・「ありがとう」 みんなをつなぐ合言葉 [以上の標語を採用]

### ○社会教育関係団体の支援

- ・山添村人権教育推進協議会〔加盟団体数 24 団体〕
  - 総会 年 1 回、役員会 年 6 回、理事会 年 1 回、推進委員会 年 2 回、学習会 年 1 回、地区別懇談会（村、村教委と共催）年 10 ヲ大字、地区別懇談会総括会（村、村教委と共催）年 1 回、現地研修会（京都府左京区・東山区）
- ・文化協会 [23 団体 会員数 239 名]
  - 総会 年 1 回（4 月）、役員会 年 1 回、代表者会 年 5 回、発表会 年 1 回、事業参加 藤井寺しゅらまつり、山添ふれあい祭り、つつじまつり、東山夏まつり、福祉施設・敬老会等への出演、視察交流研修会（ならまち散策と落語寄席）
- ・子ども伝統文化活動（8 教室の活動）
  - 発表会 年 1 回

### 【評価・提案等】

- ・本村の社会教育の現状は、公民館活動を基軸とした体制となっている。社会教育委員会委員は、こうした活動についても積極的に関わっていくよう、公民館主事との懇談会を平成 22 年度から開催することとした。これは昨年度から検討課題としてきた「社会教育の推進体制の充実」の一環であり、「せいかつ習慣標語」を用いた啓発活動の取り組みと共に活発な議論がなされた。
- ・関係団体では、人権教育推進協議会、文化協会とも長年にわたる活動の中で定着した事業展開を行っている。一部にマンネリ感を感じる事業もあるので、アンケート等をもとに住民ニーズに合った事業展開が必要ではないかと思われる。

## 社会教育施設の管理、運営

### ○公民館の管理運営

- ・地域づくり、住民の生活文化の振興
- ・自主事業（3～5 年で入替）
  - 東山公民館 … 「子どもなんでも体験 No. 1～No. 6」「東山公民館まつり」等
  - 参加者 大人 126 名 子ども 121 名

波多野公民館 …「楽しく描こう」「法話」「気功教室」「お菓子づくり」等  
参加者 大人 163名 子ども 11名

豊原公民館 …「リラックス・ヨガ・レッスン」「グラウンドゴルフ」「原木きのこ  
作り」等 参加者 大人 297名 子ども 4名

歴史民俗資料館…「伝承料理」「歴史探訪」等 参加者 大人 71名

・利用状況

東山公民館 … 年間使用件数 276件 年間使用者数 5,080名

波多野公民館 … 年間使用件数 301件 年間使用者数 2,106名

豊原公民館 … 年間使用件数 204件 年間使用者数 2,626名

○生涯学習施設の管理運営

・東豊館

運営委員会の活動充実（年1回の総会）

羽曳野市の野外活動施設として提携使用（使用料受入 936千円）

プール、キャンプ、合宿等 年間11件、585名利用

岩屋区等の使用 敬老会、盆踊り、地元子供会、風の会イベント、会議

・西豊館

西豊地区の使用 会議、敬老会、体験学習、ゲートボール等 27件 458人

【評価・提案等】

- ・各施設の管理については、老朽化に伴う修繕費（体育館の設備関係等）が年々かさむ傾向にある。
- ・公民館の利用については、いずれの館も自主事業以外の利用も多く、地域の生涯学習の拠点として利用されていることがうかがえる。
- ・生涯学習施設東豊館については羽曳野市に施設の利用提携及び運営費の一部負担を受けているが、利用のほとんどが夏休み期間中であることや、2階、3階部分の利活用が課題となっている。
- ・同西豊館については、地域の象徴として活用頂いているが、東豊館同様、2階3階部分については殆ど利用されていない状況であり、全体的な利活用については今後の課題となっている。

人権教育の推進

○西波多集会所の管理運営

・上津区へ運営委託 運営委員会 年2回 学習会 年2回

○山添村人権教育推進協議会事務

・事務局業務全般

○人権問題啓発活動推進本部との連携

・「差別をなくす村民集会」「地区別懇談会」の実施協力

○ヒューマンフェスティバルの開催

参加者 小学校4年生～6年生、中学校1年生～3年生、山添分校1年生～4年生  
高齢者講座（的野・峰寺）、一般（人推協・啓発関係等） 計約350名

内容 第Ⅰ部 子どもたちによる発表 小学生、中学生、山添分校 各1名

第Ⅱ部 田中ゆかさんによる歌とハーブ演奏

費用 講師報償金、会場使用料、人権啓発の球根・種子代他 計199,150円

【評価・提案等】

- ・西波多集会所は、老朽化に伴う修繕箇所が目立ってきた。村の施設であり、建物の存続についての検討も必要な時期となっている。

- ・集会所の事業として年間 2 回の人権学習会を行っているが、参加者数も減少傾向にあり、講師を探すのに苦慮する状況が続いている。
- ・地区別懇談会について人権教育推進協議会内で参加人員をどのように確保するか等、実施方法に苦慮されている。
- ・当年度のヒューマンフェスティバルは、ここ数年、こうした 2 部形式で開催しているが、講演をお願いする講師や上映するビデオの選択が難しく、根本的な開催方式も含めて検討する時期となっている。

## 文化財の保護、活用

- 文化財保護委員会 文化財保護委員 8 名  
委員会の開催（年 2 回）、村内文化財の視察（年 1 回）
- 文化財の保存、指定文化財の保護  
指定文化財内訳（国指定文化財 4 件、県指定文化財 10 件、村指定文化財 71 件）  
指定文化財への補助金交付 天神社消防隊交付金、村指定文化財維持管理補助金、  
村指定文化財保存事業補助金（毛原長久寺大師堂修繕）、  
防犯設備整備補助金（鍵取付費で申請のあった大字に対して補助）、  
文化財設備修繕補助金（広瀬・西方寺収蔵庫防犯設備修繕）
- 歴史民俗資料館
  - ・会議 運営委員会（1 回）、運営委員の視察研修（村外歴史探訪と併せて実施）
  - ・資料館主催の事業  
県外歴史探訪 滋賀県草津市（草津市立水生植物公園みずの森、草津宿本陣他）  
伝承料理教室 「おふくろの味」（山菜おこわ、こんにゃく、赤飯）
  - ・資料館の入館者数  
平成 22 年度・・・464 名

### 【評価・提案等】

- ・昨年度に引き続き県外歴史探訪を開催し、多くの方に参加を頂くことができた。また、伝承料理教室も毎回定員いっぱいの参加者があり、当館の人気事業となっており今後も住民のニーズにあった事業が実施できるよう努めていきたい。
- ・資料館の展示について、近年なかなか展示替えができていない。生涯学習施設東豊館で保管している考古遺物や民具などを活用し、展示替えを計画したい。

### Ⅲ 社会体育関係 [健康でたくましい心身の育成]

#### 生涯スポーツの機会提供

##### ○社会体育活動の機会の充実

- ・スポーツ教室（年間を通じ実施） 少年野球 14 名、軟式野球 13 名、一般サッカー10 名、テニス 6 名、卓球 9 名、バドミントン 6 名
- ・村民体育大会（9 月～10 月） ゲートボール 300 名、ソフトボール 70 名、ゴルフ 60 名、ソフトバレーボール 30 名、卓球 25 名、バドミントン 15 名、軟式野球 40 名、グラウンドゴルフ 80 名、ランニング 10 名 延べ参加人数 630 名
- ・市町村対抗子ども駅伝大会への出場  
馬見丘陵公園（河合町）にて開催、参加選手 12 名 村の部第 2 位、総合 26 位
- ・県民体育大会への参加  
総合開会式（11 名参加）  
競技参加 ゲートボール（38 名）、グラウンドゴルフ（10 名）、軟式野球（14 名）、陸上競技（3 名）、サッカー（14 名）、バドミントン（12 名）、 延べ参加人数 91 名
- ・スポーツ少年団の活動  
卓球（小学生対象）、団員 14 名・指導者 2 名、毎週 2 回実施

##### ○社会体育にかかる指導・啓発

- ・体育指導委員会 10 名（布目ダムマラソン運営等）  
会議（4 回）、奈良県体育指導委員研修会、奈良県体育指導委員協議会実技研修他
- ・村体育協会 加盟団体…12 団体、理事…21 名、顧問…2 名、監事…2 名  
総会、理事会、スポーツ教室指導、村民体育大会の実施

##### ○総合型スポーツクラブ「奈良アスレチック山添」

陸上、ヨガ、会員 50 名・指導者 8 名、開催 毎週 3 回

##### ○他の体育団体との連携

- ・やまぞえ布目ダムマラソン大会（第 20 回記念大会）  
記念講演会（大会前日）、谷川真理さん（大会ゲストランナー）ランニング指導他  
マラソン大会 桐山農村広場、布目湖周辺  
参加者 3 km 585 名、15 km 184 名、駅伝 150 名（30 チーム） 合計 919 名
- ・チャリティゴルフ大会、スキー教室（一般対象）、雪だるまスキー（年少者対象）、勤労者球技大会、ゲートボール協会大会、グラウンドゴルフクラブ大会

#### 【評価・提案等】

- ・体育指導委員の更なる資質向上を図るため、研修会等の機会を設ける必要がある。
- ・スポーツ教室については、参加者の減少と指導者の育成が課題となっている。参加者の確保と指導者の育成のあり方について今後検討が必要である。
- ・村民体育大会について、実施方法、競技種目等について検討の必要がある。
- ・総合型地域スポーツクラブについては、昨年度奈良アスレチック山添が設立され、小学生を対象に陸上練習を行い、大会・記録等で活躍をしている。今後とも総合型地域スポーツクラブの充実に向けた取り組みを継続していきたい。
- ・やまぞえ布目ダムマラソン大会は第 20 回の記念大会であったが、大会前日に開催した記念講演会とともに多くの参加者があった。また、前回大会からの課題であった交通規制についても問題なく実施することができた。
- ・ダムマラソン大会の今後の運営に充てるために基金を設けているが、近年は、収入不足の補うため取崩しをしており基金残高が減少している。近い時期に資金不足になることが予想されることから大会のあり方を見直すことが必要となっている。

## 体育施設の管理、運営

### ○総合スポーツセンター

- ・ 使用状況 グラウンド 244 件、9,174 名（村内外から少年野球、軟式野球、サッカー、グラウンドゴルフ等） 本年度からレッドスターベースボールクラブ使用開始  
体育館 80 件、2,350 名  
研修棟 107 件、1,952 名（大研修室、和室、応接室、料理実習室）
- ・ 山添分校の使用 グラウンド、体育館、研修棟、テニスコートを授業で利用
- ・ 施設管理（場内外の草刈り等実施）

### ○桐山農村広場

- ・ 使用状況 テニスコート 311 件（村外からの土・日・祝祭日の利用者多数）  
ゲートボール場 44 件（地元ゲートボールクラブが周辺管理を含めて利用）  
多目的広場 67 件（東山夏まつり、布目ダムマラソン、弓道）
- ・ 施設管理（場内外の草刈り等実施）

### 【評価・提案等】

- ・ 総合スポーツセンターについては、平日は主に山添分校の教育活動に利用されている。土・日・祝祭日は一般の利用者とレッドスターベースボールクラブの活用となっており、その活用は地域との好ましい関係づくりや施設管理面にも及んでいる。直接の管理については、山添分校及び教育委員会が行っているが、施設等の改修改善、設備の計画的な更新を進める必要がある。
- ・ 桐山農村広場のテニスコートは、近隣市等の人々に多く利用されている。また、ゲートボール場も地域の高齢者に利用されている。ただ多目的広場の利用は限定的である。また、草刈り等管理面の負担が大きい。

## 評価と意見

### 1. 総務・学校教育

- ・各種研修会への参加や教育現場への視察など、教育委員の質的向上と活発な委員活動が図られている。今後も更なる充実に向けた体制を執られたい。また、引き続き委員構成上における幅広い選任と地域に密着した教育行政の推進が望まれる。
- ・特別支援教育の充実が進められている。今後、支援を要する児童生徒が増加の傾向にあり、引き続き支援体制の充実を図るとともに、関係機関との連携のもと専門的支援や相談活動の体制づくりが必要と考える。
- ・教育施設設備の充実が進められてきている。小中学校では、校舎や体育館など細部にわたる工事と修繕が実施され、教育環境の整備が充実してきている。山添分校校舎の耐震診断結果を受けて、早急な補強工事とともに老朽化に対応した改修が求められる。
- ・給食センターの老朽化や機能維持に対応した修繕と設備の更新に努められている。今後も食の安全・衛生維持管理に向け、計画的に取組まれたい。

### 2. 社会教育関係

- ・公民館活動が活発に展開され、住民の興味趣向に基づいた活動となっている。さらに広範な世代と参加者を得るために、新しいニーズの研究や各種団体との連携など地域の拠点としての活動が望まれる。
- ・文化活動の振興は、地域の活性化や地域連携ともつながる生涯学習のポイントの一つである。数多くの文化活動が積極的に展開されている。新会員減少など課題もあり、活性化への取組みが望まれる。
- ・社会教育委員会の活動が新しく展開されている。「生活習慣を高めよう」と学校や家庭教育との連携をめざすなど、今後の新たな推進体制作りが期待される。

### 3. 社会体育関係

- ・生涯スポーツの充実は、村づくりともつながる重要な体育活動である。各種のスポーツが活発に展開されているが、参加者の減少や指導者の育成が課題となっている面もあり、今後の取組みが必要である。
- ・地域総合型スポーツクラブが創設されて2年、その活動が活発に展開されている。指導者の確保やボランティア支援が今後求められる。

## 総 評

- ・教育委員会の数多くの所管事業について、項目毎に端的にまとめられており、自己点検と他者評価が容易である。教育委員の質的向上については、現場と結びついた研修など、一層機能的な組織となるよう努められたい。
- ・教育委員会所管の数多い施設、設備が老朽化してきている。緊急性・必要度の高いものから改修改善を望みます。学校教育では、地域とともに歩む躍動的な教育活動を。社会教育・体育では、多世代が地域の中で息づく活動の展開を望みます。

山添村教育委員会事務事業評価委員会

赤 埴 光  
奥 誠  
植 田 栄 一